



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

2009 - 2010 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーの未来はあなたの手に」
R.I. 会長 John Kenny

2580 地区テーマ 「ロータリーの未来はあなたの手に」
地区ガバナー 多田 宏

クラブテーマ 「感謝の心で行動を」
クラブ会長 小林 雅純

本日の卓話

交換留学生…終わった一年 & これからの一年
来日留学生 アントネラさん・派遣留学生 山本絵理さん 紹介者 斎藤彰悟君

今後の卓話予定

6/9 「北欧の豊かな暮らしとは…幼児期に培われる感性」
(有)フォルムSKR 代表取締役 テキスタイルデザイナー 川上玲子様 紹介者 長堀映司君

6/16 「象牙四方山話」 (株)大熊象牙製作所 代表取締役 大熊俊夫様
紹介者 上原洋一君



2010年6月2日

第1177回例会

会長 小林 雅純
幹事 古谷 輝彦



6月お誕生日祝 18日(61才) 上原洋一君 29日(59才) 河合昭博君

前回 (5/26 1176 回例会) の記録

来訪者紹介 (1176 回例会)

◆ゲスト 9名 卓話者 元講談社編集長 大村彦次郎様
長嶋弘子様・古谷幸子様・岩戸由美子様・原田和枝様・柿沼紀子様
小林理恵子様・海内美恵子様・元会員 山尾尚司様

◆ビジター 0名

出席報告 (1176 回例会)

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
44名	1名	2名	28名	13名	68.29%	1174回例会修正 欠席 6名・出席率 85.37%

会長報告 <小林会長>

- ・本日は、夜間例会ということですが、当クラブにおきましては、今年度の最後の夜間例会であります。
- ・ご婦人方にもお声を掛けさせて頂いたところ、多数の奥様にご参加頂きありがとうございます。
- ・夜間例会を開催するに当り、昨年よりプログラム委員長の岩戸さんと打ち合わせを行い、毎回30分の卓話をしているのですが、今回は講談社編集長でいらした、大村彦次

郎様をお招きしてお話を聞かせて頂くということになりました。大村様にお話を頂くには、60分でも足りないとは思いますが、今晩は浅草にとって大変なじみの深い、久保田万太郎、川口松太郎、そして池波正太郎についてのお話をさせて頂くことになりました。この3人の小説家の先生方は、全員浅草生まれの方ですので、今日の卓話は私たちにとって大変楽しい思い出に残るお話になると思います。

幹事報告 <古谷幹事>

- ・臨時理事会報告
例会開会前に臨時理事会が開催され、幹事より馬場洋介氏の入会について会員よりの異議がなかった事が報告され、6月よりの

入会が承認されました。
・例会変更の案内が来ております。事務所で確認してください。
・6月2日例会終了後、新旧理事会を例会会場において開催します。

夜間例会「万太郎・松太郎・正太郎」



元講談社編集長

大 村 彦次郎 様

紹介者 岩 戸 正 一 君

学生の頃、永井荷風がまだ元気で、浅草に出没して何回も遭遇しています。「電気館」の裏に荷風が良く踊り子を連れてくるスナックがありました。浅草に最も近い作家と言うと、永井荷風だと思います。荷風が若いころ、フランスから帰国して、慶応大学の教授になります。そのときの学生に久保田万太郎、佐藤春夫といった人達が授業を受けています。

久保田万太郎は浅草田原町で生まれます。(1889. 11.7 生～1963. 5.6 没) 言語感覚の鋭い方で、俳句の作者としても一流でした。自分の美意識を生まれた町である浅草に当てはめたとってもいいかと思はれます。彼自身はさほど粋な人ではありませんでしたが、その作品世界は、日本文学でも真似の出来ないひとつの世界を築き上げました。その土地のモデルとなったのが誕生地浅草であります。明治22年生まれです。その10歳年下(明治33年生まれ)川口松太郎がいます。浅草の今戸に生まれます。両親は不明です。育ての親は左官業をしていました。16才の時久保田万太郎が「今戸橋」という小説を書き、自分の生まれた土地が小説に出来るということで感激します。久保田万太郎は駒形に住んでいました。お婆さん子で、歌舞伎や芝居見物に良く連れて行かれました。生物は危ないと言って刺身は食べられず、育ったため、酒の強い方でしたが、卵焼きとか豚カツをつまみにしていました。その為、晩年(昭和38年)梅原龍三郎邸で催された会合に出席し食べつけない銀座のすし屋の出張で握り寿司の赤貝を食べ、喉に詰まらせて悲劇的な最期をとげます。

万太郎は大学で荷風の教えを受け、荷風の手により「朝顔」と言う作品を三田文学に発表させてもらい、世に出たと言ういきさつがあり、荷風に対しては、足を向けて寝られないと言う関係です。

そこへ10歳年下の川口松太郎が弟子入りして来るわけです。万太郎の師匠は永井荷風です。松太郎の師匠は万太郎と言う文士の系譜と言うものがあります。浅草神社の境内に、万太郎と松太郎の俳句の碑があります。「竹馬や いろはにほへと ちりぢりに」という万太郎の句碑と、その隣にお弟子筋の川口松太郎の「生きるということむずかしき 夜寒かな」という句碑が建っています。

川口松太郎より二まわり年下、つまり24歳年下の大正12年生まれの池波正太郎がいます。池波さんには私はいろいろとお世話になりました。一昨年の秋、待乳山聖天様の公園入口近くに、池波正太郎生誕の碑というものが出来まして、除幕式には私も出席いたしました。合羽橋道具街入口のすぐに、区立の生涯学習センターがあります。その1階に池波正太郎記念文庫があります。

池波正太郎は大正12年震災の年に、聖天町に生まれました。そして上野の西町小学校に入ります。下町(上野、浅草)で少年期を送っています。両親が早く離婚しているので頭の良い生徒でしたが、日本橋兜町の株屋奉公(小僧さん)つとめを致します。後年その経験が大変役に立ったかと思えます。

大震災で東京の雑誌社は全滅します。小山内薫という戯曲の先生の紹介を受け川口さんは大阪の「苦楽社」に勤めます。そして直木三十五と一緒に編集をします。直木からは大変な刺激を受けます。菊池寛が芥川賞と直木賞を作りますが、第1回目の直木賞に川口さんが「鶴八鶴次郎」という新派で上演して有名になった小説を書き、受賞致します。その後は順風満帆です。小説「愛染かつら」が大ヒットし、映画化されます。大衆流行作家として一世を風靡します。師匠の久保田万太郎は面白くありません。彼は遅筆でした。自分の文章を削るように書く

ものですから原稿が思うように捗らないのです。川口松太郎にとって、久保田万太郎のほかに、谷崎潤一郎、菊池寛、里見淳という、これが私の師匠だと言ったりするので、なをのこと面白くありません。そこで久保田万太郎は、川口はやはり大衆作家だからと言って馬鹿にしたりしました。しかし川口松太郎は菊池寛が作った大映という映画会社の専務取締役役をしたり、劇団新派の主事を勤めたり、演出をしたり、また三益愛子と言う大女優を妻にしたりと、一時期を制する力を持ちます。川口松太郎の偉いところですが師・久保田万太郎は収入がありません。そこでいろいろな芝居の演出と言うことにして、演出家としての収入が得られるように取り計らいました。文壇でも重鎮となった川口松太郎は、第1回目の受賞者として永年選考委員をつとめます。年に2回直木賞から流行作家が出て来ますが、昭和31年に池波正太郎さんが1回目の候補になりますが落選します。6回目の候補作品「錯乱」で、海音寺潮五郎その他の多くの反対を押し切ってくれたお陰で始めて受賞します。池波さんにとって川口さんは足を向けて寝られない人になります。その後、吉川英治文学賞を受賞した時に、選考委員の川口さんに挨拶に行くのに、一人では行けないから私と一緒に行ってくれと言われご一緒致しました。いつも元気な池

波さんが、その時は驚く程おとなしく、低姿勢で、帰り道に其の事を申し上げましたら、「何を言うか！俺にとって川口さんは生まれも同じ浅草の先輩で、なをかつ直木賞受賞の折に多数の反対を押し切って受賞させてくれた大恩ある人だ。その人の前で俺が口など聞けるものかと言った池波さんを覚えています。池波さんが体を壊し、三井記念病院に入院されたのが。4月20日位でした。私は5月の連休に掛けてパリに行くことになっていたので、その前にお見舞いに行きました。戦前のフランス映画で「北ホテル」と言う映画がありました。名作です。パリの北の方にある運河に、幾つかの橋が架かっていて、その橋の袂に「北ホテル」と言う小さなホテルがあり、そこでロケが行われたのです。それが最近になって取り壊されると新聞で知り、是非そのホテルの写真を撮って来てくれないかと頼まれました。パリ出立の午前中にその「北ホテル」へ行って写真撮影をし、ドゴール空港から東京へ電話を入れたところ、今朝池波さんがお亡くなりになったと聞きました。亡くなる前よく私に俺が死んだら君に葬式をやってもらいたいと言っていました。残念ながら通夜には間に合いませんでした。

万太郎・松太郎・正太郎と言う文壇の系譜と、皆さん浅草出身と言うお話でございます。

委員会報告

<親睦委員会 高木>

- ・5月26日(水) 夜間例会2次会
ビューホテル 地下1F

「メンバー・アイスハウス」
会費 3,000円

ニコニコボックス

<小林会長、古谷幹事>

- ・大村彦次郎様、本日の卓話、よろしく願います。

<長島>

- ・上海万博へ行って来ましたが、混雑してい

ましたので雰囲気だけ味わって来ました。

<植木、渡辺、本、関原、宮村、原田、天笠、海内>

- ・大村彦次郎様、本日の卓話を楽しみにしております。

「ロータリーの友」6月号のお勧め

いよいよロータリーの友も今期最後の6月号となりました。3年間続いた「手に手くらぶ探訪」も今月号で最後という事で「東京ロータリークラブ」が紹介されています。流石に日本で最初のロータリークラブ。面白いです。一読下さい。

スピーチ「曾祖父 ジョン万次郎」

作家 中濱武彦氏

第30代米国大統領カルビン・クーリッジ(1872～1933)はジョン万次郎を評して、「アメリカが日本へと送り込んだ初代駐日大使に等しい」と述べています。それは何故か?

<今週担当 植木 榮>